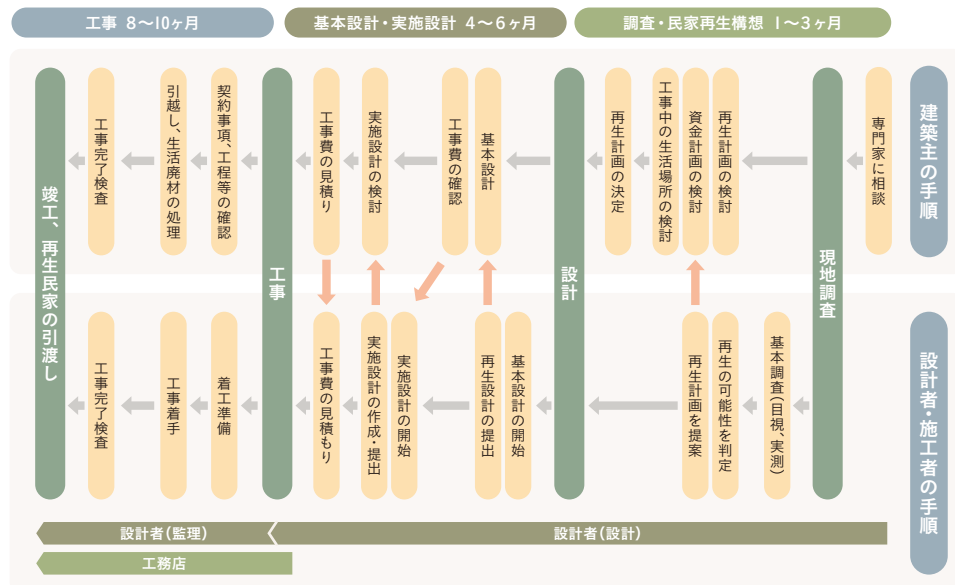




古民家再生の流れ



バラシ工事



揚げ屋工事



基礎工事



土台敷き



継ぎ手等の補修



建て起こし

より上質な
価値のある
建築ストックとして
次世代へ継承する。

茨城の 古民家 再生

有限会社
吉田建築計画事務所
一級建築士事務所

お問い合わせ
0120-922-416

メールアドレス
info@iezukuri.co.jp

詳しくはHPを
ご覧ください



本社：〒315-0001 茨城県石岡市石岡 1-1-8 TEL.0299-56-3246 / つくば事務所：〒305-0047 茨城県つくば市千現 2-1-6 TEL.029-854-0203

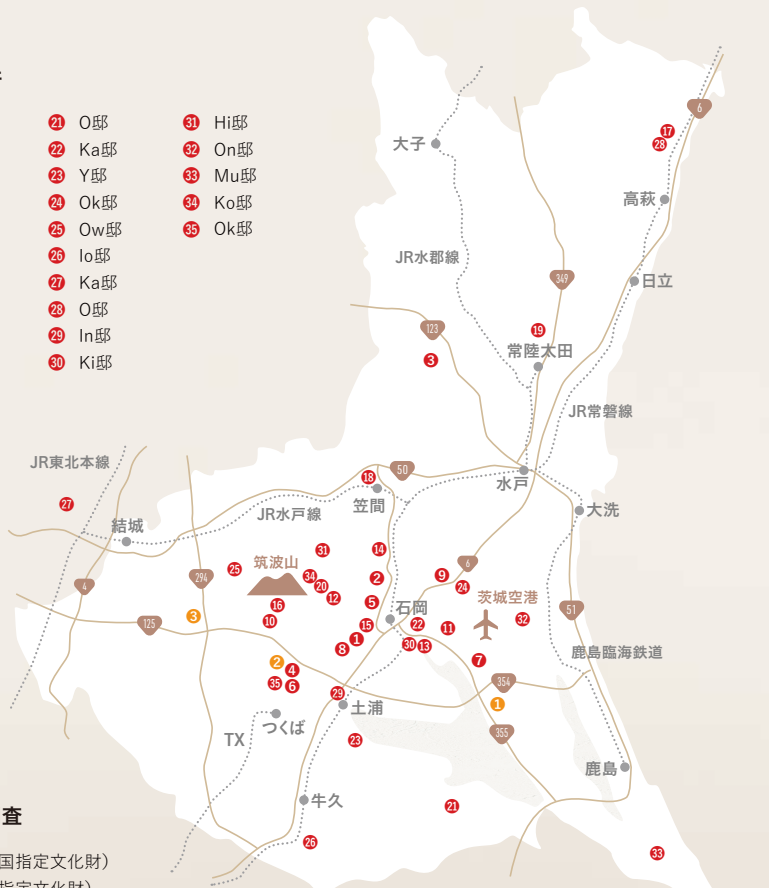
吉田建築計画事務所の仕事 2020

古民家再生物件

- | | | |
|---------------|--------|--------|
| 1 Café Hanana | 21 O邸 | 31 Hi邸 |
| 2 Su邸 | 22 Ka邸 | 32 On邸 |
| 3 Mi邸 | 23 Y邸 | 33 Mu邸 |
| 4 Hi邸 | 24 Ok邸 | 34 Ko邸 |
| 5 Ta邸 | 25 Ow邸 | 35 Ok邸 |
| 6 Ma邸 | 26 Io邸 | |
| 7 Na邸 | 27 Ka邸 | |
| 8 Tu邸 | 28 O邸 | |
| 9 K旅館 | 29 In邸 | |
| 10 I邸 | 30 Ki邸 | |
| 11 Mi邸 | | |
| 12 Ta邸 | | |
| 13 Su邸 | | |
| 14 Su邸 | | |
| 15 Ta邸 | | |
| 16 Y邸 | | |
| 17 To邸 | | |
| 18 Fu邸 | | |
| 19 Si邸 | | |
| 20 U邸 | | |

重要文化財の調査

- 西蓮寺仁王門(国指定文化財)
- 大塚家住宅(国指定文化財)
- 大宝八幡本殿(国指定文化財)



古民家を価値ある建築ストックとして次世代へ継承

茨城県内には江戸末期から昭和初期に建てられた、良質な木組みによる魅力ある古民家が数多く残っています。各地域の暮らしや風土を今に伝え、美しい日本の景観を作ってきた民家は、改めて「地域の大切な財産」として、認識が広がりとつとあると感じます。一方で、その保存・活用方法に苦慮されている方々も多く、今も住まいとして大切に使われている古民家も相当数ございますが、空き家率も年々増える傾向にあります。

吉田建築計画事務所がこれまで手掛けた再生事例の多くは、先祖代々の家を住み繋いでいくものでしたが、最近では、30代・40代のご夫婦から、古民家（空き家）を購入されての、リノベーションについてご相談が増えてきています。いずれのケースにおきましても、古民家の特徴（地域固有の様式）を活かしつつ、住む人のライフスタイルや今の時代にあった標準的な性能（耐震性、温熱環境、機能性）を備えた、良質な建築ストックとなる活用方法をご提案しています。

また、民家の再生から、地域に目を広げ、歴史ある町並みの景観形成（ランドスケープデザイン）、伝統的建築技術の継承、環境保全など、持続可能な社会づくりへ向けた長期的ビジョンの提案にも取り組んでいます。

誰もが懐かしさや温もりを感じる古民家を、より価値を向上させ次の時代へ継承して行くお手伝いをさせて頂きたいと願っています。



吉田 良一（よしだ・りょういち）一級建築士

古民家活用合同研究会委員(茨城県) | 1992年(南)吉田建築計画事務所開設 | 2012年 茨城建築文化賞リフォーム賞、いばらきデザインセレクション選定 | 2013年 茨城建築文化賞入選 | 2014年 いばらきデザインセレクション知事選定 | 2015年 茨城建築文化賞リフォーム賞 | 2016年 ウッドデザイン賞(林野庁)、いばらきデザインセレクション知事選定 | 2017年 日事連建築賞奨励賞、茨城建築文化賞土木部長賞、同リフォーム賞



家族の古い記憶とともに、人の想いをつないでいく

大正11年頃、川の氾濫により家屋が流され、施主の祖父が急ぎ建てた民家。

箆笥等家財道具の幾つかには、“水難見舞”の焼き印があり、当時の状況を窺い知ることが出来ました。

上棟日の写真が残されており、屋根の上には工事関係者と思われる多くの男性が、下には老若男女が大勢映っており、当時この家が建てられたことは、地域の人たちにとっても特別な意味のあった事だと推測しました。

家族の古い記憶や、伝統的な日本建築の佇まいを感じつつ、快適なモダンライフを実現した再生となりました。



思い描いた民家に暮らす

古民家での暮らしを思い描いていた若い御夫妻がこの建物を購入されました。

購入前に依頼を受けて、建物の工事履歴・構造や設備、雨漏り等の劣化状況について調査。

ケヤキや松、桧の躯体も部材もしっかりしており、まだまだ寿命のある状態でした。

半世紀を経た建物に少しの価値を付加することで、若いご夫婦とお子さん2人の4人家族が、「持続可能」と訳されるような、古き良き住まいでのポジティブな暮らしが可能となるようリノベーションしました。



昭和から次世代に継承される医師の家

戦後間もない頃にこの地で開業され、長年にわたり地域医療を支えてこられた医師とご家族の住まいです。きれいに手入れされた庭園と端正な表情の入母屋造りの屋根が特徴の民家です。ご家族とご親戚にも愛され、皆の集いの場でもあり建物の随所に思い出が詰まっています。減らすところ残すところ、改修するところについて意見交換を重ねました。かつての記憶をそこはかたなく感じながら、思い思いに居心地よく過ごしていただける再生案をご提案しました。



明治より刻まれる家族の歴史

明治8年創建。今回の再生では、創建後に増築された部屋を減築し創建当時の端正な姿に戻しました。主要構造には大きな木材が使用され、仕口や継ぎ手に高度な技術が施された堅牢かつ威風堂々とした構えが特徴的。今の暮らしに合った機能性・快適性と耐震性また温熱環境も考慮し部屋の用途や水廻りの位置を大きく替えました。意匠的には、この建物のシンボルである大きな梁や、大黒柱、差し鴨居といった構造物材、古建具を新たな生活空間の中において、昔の記憶を繋ぐ大切な輪郭として効果的に活用しています。



懐かしさと未来を感じるデザイン

北茨城の家は、三方を阿武隈山系の山々に囲まれ、北東側にひらけて集落が点在し、敷地正面には田畑が広がる日本の原風景といえる地味豊かな立地。

敷地内には江戸後期頃と思われる長屋門があります。(主屋は明治後期創建)

「将来、子供たちに故郷と思える家を残したい」との思いをうかがい、

新たな生活の器として、また次世代へと引き継がれることを視野に入れ計画しました。



良質な木材を活かした、薪ストーブのある古民家

建物は今から121年前となります明治28年に、施主の曾祖父によって建てられました。

玄関を一步中へ入ると、黒いチョウナ削りの梁が見える吹き抜けの土間空間が、この家のシンボルとしてお客様を出迎えます。大黒柱や差し鴨居、梁を活かしながら、キッチンやダイニングを中心とした開放的でびのびとした空間と、家族それぞれがプライベートも楽しめる個室空間とメリハリのある構成としました。



伝統とモダンスタイルの融合

玄関・リビング・ダイニングキッチンや水廻り等をメインに部分改修致しました。

当時（大正後期創建）の家具は家具職人さんの手で再現。

丸太の梁や差し鴨居は40年程前のリフォームで天井内に覆われていましたが、今回の改修で天井をばらし丁寧に洗浄し創建当時の姿を現しました。

和の伝統建築と洋のモダンスタイルが融合した新たな住空間となっています。



古き良きを継承し、さらに住み継がれる民家への再生

創建時（大正後期）の柱・梁等の構造材を生かし、古民家の持つ雄大な雰囲気をもそのままに再生。

天井は既存の梁が見える高さにし、開放感のある空間の中に重厚な梁がアクセント。

ご先祖様の想いや、創建当初の材料・技が生み出す建物の魅力を引き継ぎつつ、

これから住み継いでゆく方々の想いも大切に、

心地よさや快適性、安全性を兼ね備えた民家へと生まれ変わりました。

Column 1

住みよい民家再生のための工夫 風景と暮らしをつなぐ外構デザイン

歴史ある街並みの連続性を持つことが
その土地特有の美しい情景を残すことにつながります。



板塀が特徴的なつくば市北太田集落内の町並み

住みよい民家再生のための工夫として、特徴的な町並みの景観を保ちながら、地域的な面からの生活環境を向上していく提案が必要ではないでしょうか。

歴史ある町並みの連続性を持つことがその土地特有の美しい情景を残すのに繋がります。狭い路地では、辻的空間(コモンスペース)等が交通、防犯や防災、コミュニティの



上) F邸の東側、欄間付板塀、四つ目垣に植栽
下) 北側は御影石の支柱と杉板塀

面から地域に役立ちます。誰もが美しいと思える伝統ある風景を創ること、個人のライフスタイルを満足させることの両立が、より魅力的な民家再生となり、次の世代へ継承するポイントになります。

歴史ある町並みを次世代へ
茨城県つくば市北太田での事例を紹介します。この地域

は小田城(国指定史跡)の山城があった集落で、現在もよく手入れされた庭と黒壁の塀や建物が残り、当時を偲ばせる風景が作られています。

江戸後期に建てられた築百六十年の古民家。この事例では茨城県の伝統的建築技術の継承と、鎌倉時代からの歴史を持つ集落の伝統的意匠を踏襲し、全長40mの道路の境界沿いに黒塗りの板塀を設置。敷地内の蔵も黒板壁で統一しました。板塀のディテールは周辺の古い塀をモチーフに通風や防犯の工夫をし、モダンさも取り入れられました。

また、集落の景観の連続性を図ることを考え、板塀は時代的な差のある二つのデザインを採用。この集落はかつて水害にたびたび見舞われ、塀にも改良が繰り返されていたように思いました。

ひとつは御影石を支柱にして、貫を通し杉板を互い違いに縦張りした塀、もうひとつ



右) 門より入って正面に主屋を見る。手前右側にヒンブンが見え、その奥が駐車スペース(辻的な空間)。左上) 駐車スペースは町並みの連続性のために黒板塀を設け、その袖に四つ目垣を設けて主屋と緩やかに仕切っている。左下) 茨城県産の真砂土を使用した土の舗装。外側はコンクリート洗い出し仕上げ。乗り入れ部分は礎石の再利用した御影石

は檜材を柱に欄間と屋根を設けた塀。また、東側の一部は四つ目垣に植栽としました。ともすると黒一色で圧迫感を感じる町並みに、ほっと一息といった感じで心地よい雰囲気になりました。室内の通風・採光もよくなり、鎮守の杜も借景できるようになりました。

土の舗装で辻的な空間へ
つくば市小田(城下)に昭和5年創建の民家の事例です。城下町特有の狭くクランクの多い路地の角地にあります。

路地の角にあたる敷地は駐車スペースに。路盤は地元の土を使い舗装。乗り入れ部分は強度とデザインの両面から、御影石(礎石の再利用)とコンクリート洗い出し仕上げにしました。土の舗装は真夏でもアスファルトのような照り返しや嫌な匂いもありません。雨水の透水性も高く、周囲の素朴な風景と調和するなど美

観的にもすぐれています。

駐車場は塀や柵は設けずに、周辺に対して開いた辻的な空間に。オープンにしたことで狭い路地に光が差し、風が通り抜けるようになりました。竹や植栽の緑が美しいコモンスペース的な空間は、近所の人たちがちよつとお喋りをしたり、小学生たちが寄り道して遊んだり、地域の交流の場所になることと思います。

また、狭い路地では車がすれ違う際の待避所や回転スペース、緊急車両の出入りが可能になるなど、交通の面や防犯、防災にも役立ちます。

住みよい民家の外構には、集落全体を俯瞰したプラン作りが大切です。デザインや色、素材についてはいかに集落との景観的な整合性が取れているか、バランスよく確認すること、そうしたうえで快適性や社会的な面(防犯や災害時の対応)が機能していることが必要だと思えます。

Column 2

民家再生事例「小田の家」

快適な暮らしと街並みに配慮した再生

古民家の魅力を感じつつ家族3人が思い思いに過ごせる居場所づくりをテーマに再生を行いました。



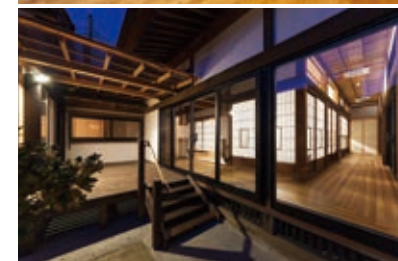
再生中の主屋と納屋

当時の姿へ戻すこととなりました。土間は民家の特徴でもあり、今後ご近所の方々にたち寄って頂ける場となるようにしました。北側のエリアは中廊下を設け、浴室・洗面・ダイニング、キッチンの家事動線を直線上にまとめ、機能的な間取りへ。中廊下には通風、採光を確保するために、無双窓や吹抜け空間を設け、明るく風通しの良い環境となるよう計画した。

それぞれの居場所

お母様の趣味は野菜作りと漬物づくり、元の台所を漬物部屋としました。畑から直接出入りができ、土の付いた野菜も床に置けるよう土間とし、業務用の流し台も設けました。かつての浴室は、奥様が物書きする書斎となり、窓からは庭が見渡せる明るく風通しの良い空間となりました。

ご主人の趣味の部屋は、小



上) キッチンからダイニング・玄関土間を見る。中央は小屋裏へ上る階段。建具や階段も丁寧に再生。下) 左側の離れから主屋へのスムーズな移動のためにデッキテラスを新設

日様邸は筑波山の麓に位置するつくば市小田の集落内にあります。この地は国の指定史跡小田城址にあり、その歴史は戦国時代に遡ります。現在も古いお寺や民家、土蔵など、かつての城下町の面影を今に伝えます。

母屋は昭和5年築、土蔵は

明治11年築、門は確かではないですが江戸後期頃に遡ることでした。この地方に多

い瓦葺きの寄棟造り（一部下屋部は切妻）、小屋組は和小屋間取りは整形4間型で土間を挟んだ妻側に下屋空間が設けられていました。

東日本大震災の発生

数回の調査とヒアリングの最中に東日本大震災が発生し、震度6弱の大きな揺れに見舞われました。すぐに駆けつけ

再生への道筋

間取りを考える中で、この家の象徴である土間、座敷、奥座敷の続き間の空間は創建

ると納屋は大きく傾き、土蔵は屋根瓦が落ち、壁の漆喰が崩落するなど甚大な被害を受けていましたが、幸いにも母屋と離れ住宅には大きな被害は見受けられませんでした。



太い梁を間近に見ることができ隠れ家のような小屋裏

広々とした三和土の土間がコミュニティの場に

